

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390101402		
法人名	医療法人室原会		
事業所名	グループホームきくなん		
所在地	熊本市北区鶴羽田3丁目11番15号		
自己評価作成日	令和2年 7月 18 日	評価結果市町村報告日	令和2年 10月 9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号		
訪問調査日	令和2年8月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

メッセージ:「私たちは家族です」に基づき、ホームを一番落ち着ける場所だと思い生活していただけるように家庭的な雰囲気のもと、それぞれの役割を持ち生活出来るよう心掛けています。体調面に関しても隣接の連携病院で何かあれば早急に対応出来るよう体制を整えており、栄養面でも連携病院の管理栄養士により管理された食事を、その人その人に応じた内容で提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

訪問時には入居者皆さんの穏やかな様子が窺え、日頃の生活や外出時の様子を収めた写真の笑顔から、職員支援のもと、安心した生活が送られていると感じました。居室は家族の関わりがそれぞれに感じられ、充実した生活空間であることが窺えました。職員会議では理念やケアの方針に加え、様々なテーマで認知症・高齢者についての学びを重ね、ISO内部監査による意見で「押しピンを使わない」ことを取入れる等、事業所全体でより安心・安全に向けて取り組む様子が聞かれました。今年は新型コロナウイルス流行に伴い家族との面会もままならない中で家族アンケートの満足度も高く、開設以来の理念である「私たちは家族です」の姿勢が浸透している様子が窺えました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を大切に業務に取り組んでおり、ケアに迷った時は理念に立ち返るよう努めている。入職時にも必ず伝達しており、施設内や運営推進会議配布物にも理念を掲示し、地域やご家族にもお伝えしている。	理念を大切にしたケアが継続され、日頃のケアでも「家族」であることを意識し、「グループホーム」であることを感じる。運営推進会議や地域への啓発も継続している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域一斉清掃参加や消防訓練など、また北区のボランティア来所等において地域の方と継続した交流が保っている。お買い物に行き地域の方と関わりをもったり、近隣の保育園の散歩時に外を覗き、声をかけたりしている。	今年度は感染症予防による自粛もあり、地域行事等による入居者と地域との関わりは難しい状況であったが、ゴミ出しや近隣の散歩、買い物等、生活を通しての地域と事業所・入居者のつながりは日常的なものとして行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポートリーダー実習受け入れも出来るよう対応している。認知症の方の支援方法など地域から要請があればいつでも対応出来る。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、ご家族や地域の方。関連業種など参加して頂き活動報告や事業所の現状をスライドを利用し報告。意見交換や助言を頂きサービス向上に努めている。	運営推進会議では行政・地域・家族等へ入居者の日頃の様子を伝えている。理念や事業所の思いを伝える場ともなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にささやりあより参加頂いたり、相談事があれば電話や来所時に尋ねたり意見交換を行うなど協力関係を築いている。また熊本市介護相談員にも来所してもらっている。	運営推進会議への参加、市の介護相談員来所等により協力関係を築いている。運営推進会議では事業所の日頃の様子を伝え、意見交換も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会開催や勉強会にてホームの現状を話し合い、常に身体拘束しないケアに努めている。	3ヶ月に1回の委員会開催に加え、事業所での勉強会で、これまでの業務について再度見直す機会を持った。身体拘束は入居者・職員両者へ影響することを確認・理解した。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会でどのような行為が虐待にあたるか、ホームで虐待が行われていないかなどカンファレンス時も含めケアを振り返り、気にならないかなど意見交換を行い、虐待のないケアを心掛けている。		

グループホームきくなん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や資料参照し学ぶ機会を持ち積極的に理解を深めるよう努めている。機会があれば外部の勉強会に参加しホームで共有する準備は出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明を行い、随時質問も受け同意を得たうえで契約を行い、改定時も同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や介護相談員面談、アンケートなど意見や要望を聞く機会を設け、改善点などあれば運営やケアに反映させ対応するように努めている。	日頃の入居者家族の面会や連絡、運営推進会議等で家族の意見を表す機会を設け、ケアや食事についての好意的な意見が聞かれている。今回の外部評価のアンケートでもほとんどの方からは満足している様子が窺えた。	現在のコロナ禍では以前のようなご家族との面会の機会が難しい様子も聞かれました。今に限ってのことですが、一部のアンケートから、事業所（職員）とご家族との関わりをもう少し求められているようにも感じました。コロナ禍に於いた対応の工夫にも期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のカンファレンス、必要時は随時、また2回/年の面談時など意見や提案があれば話し合い運営や業務に反映出来るよう努めている。	毎月の会議に加え必要時に管理者は職員の意見を得る機会を持っている。年2回事業所での個人面談、法人では相談窓口の設置等、個人での意見や思いを表す機会もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	等級制度を導入、また人事評価制度もあり自己評価等実施し目標を掲げ、各自が向上心を持って働けるよう必要時には資格取得の補助を行ったり、職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム勉強会や外部研修に参加、スキル管理表をもとに各自不得手部分は克服出来るよう努めている。また外部講師も招き知識向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会時やブロック会にてネットワーク作りをしている。今後は施設訪問などを行いケアを参考に良い所をお手本にしたり、交流を通じてケアの向上を図りたい。		

グループホームきくなん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	居室などゆっくり会話ができる環境のもと、要望や思いを聞き、スタッフ間で共有し利用者様が安心できる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とよく話し合うことで、不安や要望を聞き困った事や不安な事を知り、対応を行いより良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様、ご家族の必要としている支援を見極め、都度見直しや調整を行いながら要望に添えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事やゴミ捨てなど役割を持って頂くことで、協力し合い暮らしを共にする良い関係を築くことが出来ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族は行事の参加や季節ごとの衣替え、必要な物の買い物、必要時には専門病院への受診の付き添いなど無理ない範囲でお願いし共に支え合う関係を築くよう心掛けている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年々、ご利用者様の外出も難しくはなってきたが、季節ごとの行事外出や要望があれば暮らした地域までドライブに出掛けたり、ご家族の協力も得て馴染みの美容院へ出掛けたりしている。面会も頻回にあり馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めている	家族との関わりが大きく、入居者の生活・居室からは普段の関わりの様子が窺える。今年度は特に家族や関係者を招いての行事や面会が難しい状況だったことから、職員との馴染みの場所へのドライブや家族との外出支援等、それぞれに対して関係継続の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係性を大切に席の配置を決め、また孤立しないように努めている。会話が少ない方へはスタッフが声掛けを行い、間に入ることでご利用者様同士が関わられるよう支援に努めている。		

グループホームきくなん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も他のご利用者様と病院へお見舞いに行ったり、ご本人やご家族と会話する機会を大切にしている。また相談や支援などいつでも出来るよう努めている。退所後も読み聞かせなど来所して下さるご家族もおられ関係を継続出来ている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや要望を聞き一人一人に寄り添うよう努めている。ご家族からもご本人の意向など聞いて頂くなど努め、本人本位に出来るよう検討している。	職員の日頃の入居者への寄り添いから入居者の思いや意向を把握している。入居者それぞれの担当職員を中心として家族との対応に取組みを行い、意向の把握に努めている。法人・事業所の姿勢として職員の入居者対応・寄り添いを大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、関係者から情報提供をもとに生活歴や環境、その人らしさを把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日健康状態観察を行うことはもちろん、記録や申し送りノートを活用し全スタッフが共通認識のもと、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様やご家族の思いや意向をもとにケアのあり方を考え、またそれぞれの受け持ちスタッフで話し合いを行い、モニタリングや介護計画を作成している。	入居者家族には希望・要望等を事前に面談を行い、入居者の意向も汲み、担当職員を中心に話し合いを行い介護計画を作成している。事業所では、入居者「本人がしたいことを探って実現する」ことを方針としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個人の経過、ケースカンファレンスなどは記録し、家族シートや医療連携シートも参考に全スタッフが把握できるようにし、介護計画見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様やご家族の要望時、またスタッフが必要と判断した際には、訪問マッサージや訪問歯科など外部のサービスも柔軟に対応するよう取り組んでいる。		

グループホームきくなん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域清掃、北区ボランティア慰問による交流など行いご利用者が地域の中で力を発揮し、施設外の方と交流を楽しみを持って頂けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携病院受診はもちろん、ご利用者様やご家族が希望される病院へ通院出来るよう支援している。必要時は連携病院以外でも情報交換を行い適切な医療が受けられるよう支援している。	入居者・家族の意向によるかかりつけ医受診を支援する。現状は隣接する連携病院での受診が殆どであり、職員介助により通院している。その他医療機関の場合は、家族の協力も得ながら適切な医療受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤職員として1名看護師を配置、また連携病院の看護師とも協働し必要時には受診や住診の対応が図れるよう体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設長が連携病院の医師であり、病院関係者とも常に連携がとれている。施設長指揮のもと他病院への入院も円滑に行っており、入院後は管理者もしくは介護支援専門員が窓口となり相談や情報交換を行っており関係作りは出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り、終末期に関する方針を定めており、契約時に説明を行い同意を得ている。その場面や時期が近づいたら連携病院やご家族と連携をとりチーム支援に取り組んでいる。	重度化や終末期に向けた方針は入居時に説明、同意を得ている。実際にその時期を迎えた際にはかかりつけ医他関係機関と協力し取り組む。医療機関への入院を希望される例もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルをフローチャートや写真を用いて作成しており、職員への周知を徹底している。勉強会や外部講師によるAED実技指導も毎年受け実践力を身につけている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震、水害時の対応マニュアルを作成、非常時の手順を熟知している。年2回の消防訓練、地域の方や母体病院のスタッフも参加のもと、救助方法や誘導の情報共有に努めている。	火災・地震・水害についてのマニュアルを整備し、職員へも周知している。例年、年2回の避難訓練の際は近隣からの参加が見られるが、今年は隣接する同法人事業所との連携・協力で行った。	

グループホームきくなん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇や権利擁護について勉強会など再確認出来る機会を設け、ご利用者様の尊厳には配慮するように努めている。	高齢者の権利擁護や接遇に関しては勉強会でテーマを設け学んでいる。職員は理念である「私達は家族です」を念頭においたケアを実践しており、入居者の安心・安全な暮らしに向けた対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様のペースに合わせ、その方にあった個別対応に努めている。傾聴方法も学びご利用者様が自己決定出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様のその時々状況に配慮して柔軟な対応に努めている。希望や要望があればその思いに添えるよう支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人と相談し希望のカットや毛染めなどの対応を行っている。洋服もご本人希望のものなど選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は隣接する病院から配食があり、盛り付けなどはホームで行っている。セレクトメニューの日や肉が固くて苦手な方はミンチに変更など、ご利用者様が食事を楽しんで頂けるよう配慮している。皿洗いや皿拭き等出来る方がその時々状況に応じ担当されている。	食事は隣接する事業所からの配食であるが、職員・入居者により盛り付けや片付けを行っており、生活の中での役割が見られる。週一回は麺料理等セレクトメニューもあり、毎月食事やデザートを入居者参加で作っている。入居時に入居者それぞれに食の好みや対応を確認しており、食事が楽しみとなる取組みを個々の状況に応じて対応している。	献立は法人で決められたものとはいえ、入居者それぞれの好みや固さ等、意見が取り入れられていました。事業所手作りの日には、出来ることを出来るところで入居者の関わりも見られました。食事全体を生活とする取組みに今後も期待しています。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によりバランスのとれた食事提供が出来ている。チェック表を用い食事量や水分量を把握しており、水分摂取量が少ない方はゼリー提供など個々に応じた支援を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けし、自力で難しい方はスタッフがやっている。その方の習慣に応じ、義歯のつけ置き洗浄の時間帯を考慮したり、訪問歯科利用などご家族に提案したり、要望に応じた支援に努めている。		

グループホームきくなん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターン把握や声掛け誘導時間をスタッフ全員が把握出来るようチェック表を用い利用者様に応じた支援を行っている。日中は布パンツにし自立に向けた支援を行っている	入居者それぞれの状況に応じて対応しており、日中は声掛け等により出来るだけ誘導にてトイレでの排泄を支援している。オムツの使用や夜間の対応についてはそれぞれの家族とも話し合いを重ねている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の牛乳提供や、ご家族の希望でバナナやヨーグルト、納豆提供を個々に応じて行っている。腹部マッサージなども取り入れ、出来るだけ自然排便を促すよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	3回/週の入浴だが、入浴時間はその方の状況やペースに合わせて支援している。外出やご家族の希望があれば時間帯は臨機応変に対応している。	週3回以上の入浴を基本とし、個々の状況に合わせた支援を行っている。入浴中の支援や着替えの準備等、出来ることは力を活かしすような対応が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを考え支援しているが、自由にソファや居室で休んだりご利用者様の希望に添って気持ちよく過ごせるよう支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフは服薬ファイルと毎日のチェックにて内容を把握している。症状の変化がある場合は医師や薬剤師へ相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の出来る事や嗜好品などは把握しており、家事やゴミ捨てなど役割を持って頂いたり、嗜好品はすぐに提供出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩、買い物、ドライブ、行事外出など戸外へのお出かけには配慮し支援に努めている。日常会話で行きたい所など聞き、ご家族へも呼びかけを行っている。外出が難しくなってきたご利用者様へはテラスなど外気を感じる時間を大切にしている。	日常的な生活の中で近隣への散歩や職員との買い物、ゴミ出し等外出の機会を持っている。季節毎のドライブや花見、一時帰宅の様子も窺えた。敷地内の畑作りや日当りのよいテラスで過ごすことも出来る環境であり、行事だけでなく、日常的に外気を感じる事が出来る。	



グループホームきくなん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様やご家族の希望にて数名の方はお金を所持されており、お菓子などの購入と一緒に出掛けたり、要望に応じて買い物支援など行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様より希望があった際は自由に電話でお話して頂けるように対応している。また電話があった際もおつなぎし会話を楽しまれている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様のお庭に咲いている頂いた季節の花を飾ったり、窓を開放し風を感じて頂いたりテラスへ出たり、ご家族の作品を展示し雰囲気の良い空間作りに努め、湿度や温度調節に配慮し、心地よく過ごせる空間作りに努めている。	明るい陽射しを感じる共用空間には入居者の笑顔あふれる写真が飾られており、日頃の様子が窺える。清掃にも配慮が見られるが、勉強会では「介護現場における環境整備について」をテーマに、高齢者にとっての危険について学ぶ機会を持った。感染症予防のため、席の配置にも配慮し、環境整備に関するチェック表も作成し取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルでは自席を設けているが、状況に応じ自由に座って頂けるよう努めており、ソファや廊下のベンチでゆっくりくつろげる方もおられ、思い思いに過ごされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ小物や家具、布団など持参して頂いている。思い思いに自由に居室の飾りつけをして頂き、心地よく過ごせる空間作りに努めている。	入居者の好みや親しみのある家具等の持込みがあり、心地よく過ごせるよう家族の関わりを感じる部屋もある。居室入口の名札設置は入居者の意向を確認する。居室にも環境チェック表を備え、温度管理を行う。入居者が居室を掃除する姿も見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には花のイラストと名前を表示、トイレの内部やドアにも表示をし不安なく自立した生活が送れるよう努めており、ご利用者様によってはトイレ時、補助具を設置したり、安全に出来るだけ自立出来るよう工夫している。		

## 2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームきくなん

作成日 令和2年10月8日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	コロナ禍での事業所（職員）とご家族の関わり方の工夫	オンラインや短時間での面談を実施 （入居年数に応じ3ヶ月～半年に1回、場合によっては随時）	ipadの購入	1カ月
2	40	食事に関する取り組みに今後も期待	今まで同様 1回/2ヶ月は外食もしくは料理、おやつ作り実施、さらに主食セレクト日を追加	現状通り、外食や料理作りを定期的実施、またご飯の日や麺のセレクト日に加え日曜日は主食（米かパン）のセレクト日を追加	即日
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。